

研究会案内

アジ研のアフリカ関連研究会の紹介です。

「アフリカにおける紛争後の課題」研究会

(主査：武内進一・地域研究センター)

紛争勃発後のアフリカ諸国で、平和に向けたどのような動きがなされているのか。それはどのように評価できるのか。こうした問題意識を掲げて昨年度始まった本研究会も、いよいよ取りまとめの時期を迎えた。2008年1月26、27日にはドラフトを持ち寄って原稿検討会を行い、2月20日の最終原稿提出に向けて草稿をブラッシュアップしていくことになる。平和構築の専門家とアフリカ地域研究者とが一堂に会した研究会では、ディシプリンの違いもあって時に緊張した議論が戦わされた。その成果は、アジ研の厳しい査読を通れば、2008年度中に出版される。大変有意義な研究会であったし、刺激的な成果物が出来上がると確信している。(武内)

「アフリカ農村の住民組織と市民社会」研究会

(主査：児玉由佳・地域研究センター)

アフリカの農村社会の変容を、「市民社会」や「公共性」といった切り口から分析をしようというのが本研究会の問題意識であった。この1年間は、まず「市民社会」とは何なのかといった基本的なところからスタートし、具体的な事例がどのようにこれらの概念と関係してくるのか、手探りの中で議論が進められた。残る1年、研究会において忌憚なき議論をさらに重ねることで、分析を深めていきたい。2008年3月末に、研究会1年目の成果として「調査研究報告書」を刊行し、ウェブサイトでも公開の予定である。なお、来年度から武内進一(地域研究センター)が新たに委員として参加する。(児玉)

「地域振興の制度構築」研究会

(主査：西川芳昭・名古屋大学大学院准教授、幹事：吉田栄一・地域研究センター)

研究会委員は現地調査に取り組み、かつ最終原稿

の執筆にいそむ多忙な半期であった。西川芳昭主査、佐藤快信両委員はフィリピンへ、清家政信委員は徳島県上勝町へ、佐藤快信委員はさらに長崎県対馬へ、吉田栄一幹事はマラウイへ現地調査に赴き、それぞれの調査地でローカルアクターの地域興しにおける役割と、それをとりまく制度との関係構築のプロセスを調査した。研究会の視点は、地域の裁量権を拡大することを目的とする地域振興というターゲットから、地域の状況や能力に応じて柔軟に意思決定を下せる能力の構築という点に委員の意見も変化していった。成果物は次年度出版の予定である。(吉田)

「政治変動下の発展途上国の政党 地域横断的研究」研究会

(主査：佐藤章・地域研究センター)

本研究会は、地域横断的な枠組みの中で、発展途上国における政党ないし政党システムの様態をさぐるものである。初年度である平成19年度は、7名の委員が、それぞれが専門とするラテンアメリカ、中東、アフリカの事例報告を行った。アフリカ関連では、南アフリカ(遠藤貢委員)、ケニア(津田みわ委員)、コートディヴォワール(佐藤)が取り上げられた。互いの相違点をとおして各事例の固有性が明確になると同時に、共通する論点もいくつか発見でき、次年度につながる実り深い成果が得られた1年となった。中間報告書は近日中にアジ研のウェブサイトでも公開される予定である。(佐藤)

「発展途上国における石油産業の政治経済学的分析」研究会

(主査：坂口安紀・地域研究センター)

本研究会では、「市場vs国家」(中国、インドネシア、ベネズエラ)および「地方vs中央」(ナイジェリア、エクアドル、イラク)という二つの分析軸に関わる要素と、石油政策や石油産業のパフォーマンスの間に働く相互作用に注目している。前者を説明変数とし、それが石油政策や石油産業、あるいは国営石油会社の経営にどのような影響を与えるかという問題意識に立って分析を進めてきた。

各担当者が、それぞれ担当国の現状について行った研究報告を基に、データブックとしての便宜を有する中間成果報告書を取りまとめている。(望月)

■ 「開発途上国における社会運動と民衆の政治参加」研究会

(主査：重富真一・地域研究センター)

欧米の事例分析を軸として発達してきた従来の社会運動論に対して、本研究会ではアジア、ラテンアメリカ、アフリカに目を向け、それぞれの地域における社会運動現象そのものを理解すると同時に、途上国の社会運動に適した分析枠組みの構築を目指している。本年度前半の研究会では、事例で取り上げる全8カ国(アフリカはナイジェリアおよび南アフリカの2カ国)の社会運動事情を各委員が報告し、年度後半には日本の住民投票運動に関する聞き取りと各委員の執筆構想報告を行った。現在、研究会の最終成果(英語)を取りまとめ中であり、来年度の刊行を目指している。(牧野)

■ 「国際価値連鎖のダイナミクスと東アジア企業の成長」研究会

(主査：川上桃子・新領域研究センター)

台湾、中国、インドネシア、ベトナム、マレーシアの携帯電話、PC、自動二輪車産業にまじって、アフリカの衣料産業におけるローカル企業の学習を分析している。アフリカでは多国籍企業からローカル企業への技術移転は進んでいないが、アジアではどこまで移転できるか、さらに移転した技術をもとに自分たちで研究開発ができるかが課題になっている。そのギャップには驚くばかりだが、アジアと比べて何が違うのかを見極められればと思う。中間報告の内容は、各委員がディスカッション・ペーパーとして英文で出版する予定である。(福西)

■ 「アフリカ開発援助の新課題」研究会

(主査：吉田栄一・地域研究センター)

TICAD IV に向け、アフリカ開発の議論を整理し、展望することを目的として半年間の短期研究会を実施した。気候変動、砂漠化防止のような「新」テーマもあれば、産業政策の改善といった「新」アプローチも検討されている。研究会を一般に公開すると

いう例のない試みに研究会運営は多忙を極めている。参加者は報道関係、関係省庁、実施機関、NGO、学生まで幅広く、遠方からの参加もいただき概ね好評である。年度末にかけて、研究会の成果をもとに公開討論会を開催し、5月のTICAD IV と7月のG 8サミットに向けて学界の意見を広く世に問いたいと思っている。(吉田)

■ 「成長するアフリカ 日本と中国の視点」研究会
(主査：武内進一・地域研究センター)

2007年9月、中国から5名のアフリカ研究者を招き、クローズドのワークショップと公開セミナーを実施した。ワークショップでは、アフリカ経済の現状、自国のアフリカ研究、対アフリカ外交、対アフリカ援助、アフリカとの貿易・投資という五つのテーマに関し、日中双方がペーパーを出し合って議論した。10本のペーパーは、リバイズの上アジ研のウェブサイトで公開されている。日本と中国がアフリカをどのようにとらえ、どのように関わってきたのかを知るために、興味深い内容になったと思う。以下のページで閲覧可能なので、多くの方々に読んでいただきたい。(武内)

http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2007_03_03.html

その他、「障害者の貧困削減 開発途上国の障害者の生計」研究会(主査：森壮也・新領域研究センター)に亀井伸孝さん(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)が委員として参加し、アフリカのろう者に関する研究に取り組んでいます。

国際シンポジウム、専門講座

アジ研主催の国際シンポジウムや専門講座で、以下の報告を行いました。

・福西隆弘

“Productive Efficiency and Competitiveness of the African Manufacturing Sector : New Evidence from the Inter-Regional Data”

国連工業開発機関(UNIDO)との共催セミナー「アフリカとアジアの生産性と経済成長」(2007年10月9日、於国際文化会館)

- ・平野克己
 “What is Happening in ‘Poor’ Africa”
 国際シンポジウム「貧困削減を越えて 低所得国のための開発戦略」(2007年11月29日, 於経団連ホール, 共催: 朝日新聞社, 世界銀行)
- ・平野克己「20年遅れのグローバリゼーション 急成長するアフリカ」
 アジ研専門講座(2007年12月20日, 於ジェトロ東京本部)

来訪者紹介

- ・フセイン・ソロモン(Hussein Solomon)教授(ブレトリア大学教授・国際政治研究センター所長)が, 2007年10月11日にアジ研を訪問し, 以下のテーマでセミナーを実施しました。
 「アフリカにおける紛争予防と人間の安全保障 ダルフルの事例から」
- ・李安山(Li Anshan)教授(北京大学国際関係院)が, 2007年12月6日アジ研を訪問し, 以下のテーマでセミナーを実施しました。
 「アフリカの中国人 歴史的研究」

インターン紹介

2007年10月1日～2008年2月29日の期間中, タンザニア財務省のニコラス・ションベ(Nicolaus Herman Shombe)さんとザンビア商業省のチブエ・チサラ(Chibwe Chisala)さんがインターンとしてアジ研に滞在中です。いずれも, 政策研究大学院大学国際開発研究修士課程に在学中です。

ウェブサイト紹介

以下の研究成果が, 新たにアジ研ホームページからダウンロード可能になりました。ぜひご活用下さい。

調査研究報告書

- ・『アフリカにおける紛争後の課題』(武内進一編)
 (http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2006_04_15.html)
- ・『地域振興の制度構築に関する予備的考察』(西川芳

昭・吉田栄一編)

(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2006_04_16.html)

- ・『開発と社会運動 - 先行研究の検討』(重富真一編)
 (http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Report/2006_04_17.html)

IDE Discussion Papers

- ・No.129 “Has Low Productivity Constrained Competitiveness of African Firms? : Comparison of the Firm Performances with Asian Firms”(福西隆弘著)
 (http://www.ide.go.jp/English/Publish/Dp/pdf/dp_129.pdf)
- ・No.124 “Diversities and Disparities among Female-Headed Households in Rural Malawi”(高根務著)
 (http://www.ide.go.jp/English/Publish/Dp/pdf/124_takane.pdf)
- ・No.117 “Gambling with Liberalization : Smallholder Livelihoods in Contemporary Rural Malawi”(高根務著)
 (http://www.ide.go.jp/English/Publish/Dp/pdf/104_takane.pdf)

編集後記

編集委員の高根務氏が3月末でアジ研を去る。新天地でも高い研究水準を維持してほしい。(武内記)

アフリカレポート 第46号

アジア経済研究所
 独立行政法人日本貿易振興機構

編集 『アフリカレポート』編集委員会

発行 研究支援部

〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2

TEL 043-299-9735 FAX 043-299-9736

E-mail: syuppan@ide.go.jp

2008年3月20日発行 © 定価735円(本体価格700円)